

作物名：トマト

病害虫名：茎えそ病（病原：*Chrysanthemum stem necrosis virus ; CSNV*）

1 被害の特徴と診断のポイント

- 茎にえそ、葉にえそや退緑、輪紋、果実では着色異常やえそ、変形を生じ、株の生長点付近ではえそ、萎縮、褐変等の症状を生じる。これらの症状は、トマト黄化えそウイルス（TSWV）による病徴と酷似しているため、識別は難しい。

2 伝染源・伝染方法

- 本病は主に CSNV を保毒したミカンキロアザミウマによって媒介される。
- 幼虫時に感染植物を吸汁することによりウイルスを保毒し、終生ウイルスを伝搬（永続伝搬）する。
- 経卵伝染、種子伝染、土壌伝染はしないと考えられる。実験的に汁液接種は可能である。
- 罹病株を親株に用いた挿し穂による栄養繁殖でも伝染する。
- 寄生宿主は雑草など広範囲にわたる。



写真1 茎及び葉のえそ症状

3 発病しやすい条件

- ミカンキロアザミウマによって媒介されるため、増殖に好適である高温で発生が多くなる。

4 防除方法

- 罹病株を抜き取り、ほ場外に持ち出して焼却または埋設処分を行い、伝染源を除去する。
- 媒介虫であるミカンキロアザミウマを防除する(表1)。育苗の段階から防除を徹底し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避ける。
- 施設の開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネット(赤色)を設置し、本虫の侵入を防ぐ。
- 施設内及び周辺雑草は本虫の生息場所となるため、施設内外の除草を徹底する。
- 栽培終了後は、残さを速やかに除去する。夏期間においては、施設を密閉して高温を保ち、本虫を死滅させる。

5 その他

- 本ウイルスはトマトの他、ミニトマト、ピーマン、トウガラシ、キク、アスター、トルコギキョウへの感染が報告されている。
- 宮城県では、2010年にキク（平成22年度特殊報第1号）、2011年にトルコギキョウ（平成23年度防除情報第3号）において発生が確認されている。

6 出典

(1) 参考文献

- 日本植物病名データベース（農業生物資源ジーンバンク）
- 植物防疫第65巻第9号:18-21.2011年（日植防）

(2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影



写真2 トマト果実の着色異常とえそ症状

(令和5年9月改訂)